



プレスリリース

グローバル・ヘルス・サミット開催

**G8 最大の開発テーマ: グローバル・ヘルス(国際保健)
全ステークホルダーが初めて集結し、TICAD IV(アフリカ開発会議)、
G8 に向け、日本の役割を議論。**

■今なぜグローバル・ヘルスカ ～人間の安全保障から福田ダボス演説まで

- ・グローバル・ヘルスとは、感染症・母子保健など国際的な保健課題を指す。
- ・日本は、2002 年以降、緒方貞子氏の提唱する『人間の安全保障』の視点に立ち、当分野で大きな貢献をしており、海外からも高い評価を得ている。また、特に今年は、福田首相のダボス演説(2008 年 1 月 26 日・世界経済フォーラムにて)でも取り上げられたように、TICAD IV、G8 に向け、環境問題とともに、日本がリーダーシップを発揮し、注力していく最重要課題である。

■グローバル・ヘルス・サミットの概要

- ・2008 年 2 月 16 日(土)フォーシーズンズホテル(東京都・文京区)にて、世界銀行と日本医療政策機構の共催で開催。(プログラム別紙ご参照)
- ・野口英世アフリカ賞を創設した小泉元首相、グローバル・ヘルスに取り組むゲイツ財団のプレジデント、TICAD を開催する世界銀行副総裁他、グローバル・ヘルスを動かす主要なメンバーが集結。
- ・政・官・財を中心とする国内の全ステークホルダーが初めて集う。
- ・グローバル・ヘルスの課題のみならず、日本がいかにかこの分野でリーダーシップを発揮し、TICAD/G8 につなげていくか議論する。

■グローバル・ヘルスをめぐる重要会議

- | | |
|-----|---|
| 1 月 | WHO Commission on Social Determinants of Health |
| 2 月 | グローバル・ヘルス・サミット |
| 4 月 | G8 開発担当大臣会合、経団連ビジネスサミット |
| 5 月 | 日本国際交流センター(世界基金支援日本委員会)主催の国際シンポジウム
TICAD IV |
| 6 月 | Pacific Health Summit(シアトル)、G8 外相会合 |
| 7 月 | G8 サミット |

■日本医療政策機構

特定非営利活動法人日本医療政策機構(代表理事:黒川清)は、「市民主体の医療政策を実現すべく、中立的なシンクタンクとして、幅広いステークホルダーを結集し、社会に政策の選択肢を提供すること」を理念として活動している民間シンクタンクです。日本を代表する学者、患者会代表、医療従事者、経済人などが参画しています。特に、「市民・患者主体の医療」「医療政策の優先順位」などの分野において、調査・政策提言を行い、医療政策の意思決定者を結集して討議し、政策実現を支援しております。詳しくは、<http://www.healthpolicy-institute.org> をご参照ください。

グローバル・ヘルス・サミット

“Advancing our promises for TICAD IV / G8 and beyond”

- 12:10 基調講演
小泉 純一郎氏 衆議院議員
- 12:40 昼食
- 13:40 ビデオメッセージ
緒方 貞子氏 国際協力機構(JICA)理事長
- 13:50 「Overview of the Current Situation of Global Health」
Joy Phumaphi 氏 世界銀行人間開発ネットワーク副総裁
- 14:10 休憩
- 14:30 「アフリカ開発会議(TICAD IV)及び G8 へ日本はどう貢献できるか」
～政府、国際機関、企業、市民の果たす役割～
- パネリスト
- Jay Naidoo 氏 南アフリカ開発銀行議長
Akiko Maeda 氏 世界銀行人間開発ネットワーク
保健・栄養・人口ネットワークセクターマネージャー
- Tachi Yamada 氏 ビル&メリンダ・ゲイツ財団プレジデント
山本 正氏 日本国際交流センター理事長
米倉 弘昌氏 住友化学株式会社社長
- ファシリテーター
- 道傳 愛子氏 NHK 解説委員
- 16:00 コーヒーブレイク
- 16:30 「TICAD IV / G8 へのロードマップ」
鶴岡 公二氏 外務省地球規模課題審議官
- 16:50 ビデオメッセージ「Welcome to Toyako」
鳩山 由紀夫氏 衆議院議員
- 17:00 閉会
黒川 清 日本医療政策機構代表理事
- 17:10 カクテル レセプション

以上

ミレニアム開発目標

ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals: MDGs) は、2000年9月ニューヨークで開催された国連ミレニアム・サミットで採択された国連ミレニアム宣言と1990年代に開催された主要な国際会議やサミットで採択された国際開発目標を統合し、一つの共通の枠組みとしてまとめたもの。2015年までに達成すべき8つの目標として、極度の貧困及び飢餓の撲滅、普遍的初等教育の達成等を具体的数値と共に掲げている。

目標とターゲット
<p>ゴール 1: 極度の貧困と飢餓の撲滅 2015年までに1日1ドル未満で生活する人口の割合を1990年の水準の半数に減少させる。 2015年までに飢餓に苦しむ人口の割合を1990年の水準の半数に減少させる。</p>
<p>ゴール 2: 初等教育の完全普及の達成 2015年までに、全ての子どもが男女の区別なく初等教育の全課程を修了できるようにする。</p>
<p>ゴール 3: ジェンダー平等推進と女性の地位向上 可能な限り2005年までに、初等・中等教育における男女格差を解消し、2015年までに全ての教育レベルにおける男女格差を解消する。</p>
<p>ゴール 4: 乳幼児死亡率の削減 2015年までに5歳児未満の死亡率を1990年の水準の3分の1に削減する。</p>
<p>ゴール 5: 妊産婦の健康の改善 2015年までに妊産婦の死亡率を1990年の水準の4分の1に削減する。</p>
<p>ゴール 6: HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止 HIV/エイズの蔓延を2015年までに食い止め、その後減少させる。 マラリア及びその他の主要な疾病の発生を2015年までに食い止め、その後発生率を減少させる。</p>
<p>ゴール 7: 環境の持続可能性確保 持続可能な開発の原則を国家政策及びプログラムに反映させ、環境資源の損失を減少させる。 2015年までに、安全な飲料水及び衛生施設を継続的に利用できない人々の割合を半減する。 2020年までに、少なくとも1億人のスラム居住者の生活を大幅に改善する。</p>
<p>ゴール 8: 開発のためのグローバルなパートナーシップの推進 さらに開放的で、ルールに基づく、予測可能でかつ差別的でない貿易及び金融システムを構築する。 (良い統治、開発及び貧困削減を国内的及び国際的に公約することを含む。) 後発開発途上国の特別なニーズに取り組む。 (1) 後発開発途上国からの輸入品に対する無税・無枠、(2) 重債務貧困国 (HIPC) に対する債務救済及び二国間債務の帳消しのための拡大プログラム、(3) 貧困削減にコミットしている国に対するより寛大な ODA の供与を含む。) 内陸開発途上国及び小島嶼開発途上国の特別なニーズに取り組む。(バルバドス・プログラム及び第22回国連総会特別会合の規定に基づき) 債務を長期的に持続可能なものとするために、国内及び国際的措置を通じて開発途上国の債務問題に包括的に取り組む。 開発途上国と協力し、適切で生産的な仕事を若者に提供するための戦略を策定・実施する。 製薬会社と協力して、開発途上国において人々が安価で必要不可欠な医薬品を入手できるようにする。 民間部門と協力して、特に情報・通信における新技術による利益が得られるようにする。</p>

(外務省ウェブサイトより http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/doukou/mdgs/mdgs_mp.html)

福田首相のスピーチ(抜粋)

サミットのもう一つの重要議題は開発・アフリカです。

私は、日本が「平和協力国家」として世界の平和の強化に貢献していくことを目指しています。

日本は、平和的手段で平和を強化します。その重要な手段が途上国の開発努力への支援です。

アフリカについては、私は、5月に横浜で第4回アフリカ開発会議、TICAD IVを開催し、「元気なアフリカ」のテーマの下でアフリカ開発を推進する議論を行います。開発の議題の下では、アフリカを含む世界全体の問題を取り上げます。

世紀の変わり目に、国際社会は高い理想を持って、ミレニアム開発目標をまとめました。今年は、2015年までに達成すべきこの目標のちょうど中間年に当たります。私は、「人間の安全保障」の観点から、サミットで「保健・水・教育」に焦点を当てたいと考えています。

まず、保健について述べます。

日本は、サミット主催国として初めてアフリカの首脳を招いた8年前の九州・沖縄サミットで、感染症に焦点を当て、その後、3大感染症に取り組む世界基金の創設に努力しました。

この基金によってこれまで約250万人の人命が救われています。

しかし、保健分野のミレニアム開発目標のうち、特に安全な出産と乳幼児の健康問題は、依然深刻な状況にあります。年間約50万人の妊産婦と約1,000万人の乳幼児が死亡しています。

また、保健医療に従事する人材の不足も課題です。

この事態を早急かつ大幅に転換させるため、私は包括的な国際保健協力の推進を提案します。

この努力は、G8の政府関係者のみで担うことはできません。専門知識と経験をもった国際機関や世界の医療政策の専門家、現地で活動するNGOや市民社会、民間企業などのすべての関係者の参加を得て、保健システム全体を底上げするための行動計画を策定していきます。

私は、この努力を21世紀に相応しい全員参加型の新たな国際協力の模範としたいと思っています。

(中略)

私は、このTICAD IVの成果を北海道洞爺湖サミットでG8の首脳と共有し、さらには、秋の国連総会において、これら2つの会議の結果を議長として報告して、世界と共有したいと考えています。

(2008年1月26日世界経済フォーラムにて)

(外務省ウェブサイトより http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/enzetsu/20/efuk_0126b.html)